

愛知県医労連 永田敏剛

コロナが第5類となり、世の中が少しづつ明るい方向に向かってきた実感はありますが介護現場はそう簡単な状況ではありません。ヘルパーの報酬の削減にもみられるように在宅介護のかなめとなる大切な介護の営みを、ICTの活用や標準化による効率業務の動きが加速しています。しかしながら、そもそも私たちは画一化した支援では収まり切れない対人支援、個別性の高い支援に向き合っています。経験値のないコロナを経験した後で得られたもの、今、新たに見えてきたもの、それ以上にずっと抱えているさまざまなテーマなど沢山あると思います。今まさに話してみたいこと、問題とと思っていること、明日につながる様々なヒント、テーマについて、まだまだ時間がありますので、是非この機会に発表をお願いしたいと思います。

- 1 ご利用者の生きる力や喜び、やりがい、いきがいにつながった事例
 - ①コロナ禍での新たな発想や取り組み、その後の発展等につながった事例
 - ②今までにない失敗や教訓を得て、今後取り組みたい事例や取り組み
 - ③衣食住における基本的なケアの追求、生活支援を通じた参考事例

- 2 困難だった事例や新たに直面している事例 葛藤を抱えている事例
 - ①セルフネグレクトや孤立、ヤングケアラー等の問題に取り組んだ事例
 - ②地域での取り組みや組織的なつながりで、ご利用者の支援に取り組んだ事例
 - ③虐待や複雑な家族関係などソーシャルワークの有効性を検証する事例

- 3 事業所として、経営的な改善や人員確保の取り組んでいる事例
 - ①介護の喜び、モチベーションにつながった事例。
 - ②この業界に就業したいと思われるような取り組み。
 - ③人手不足等困難な中での介護力の育成や後継者づくりの取り組み

- 4 その他
 - ①地域や国への要望、今後の介護保険事業に関わる発信を踏まえた発表
 - ②今までにない支援形態を試みた事例 通信機器やモバイルを駆使した事例
 - ③BCPや今後の介護職の働き方を踏まえた視点や提言等

まだまだ現場の困難は続きます。様々な視点で、今後に向けた発信はできると思いますので皆さんよろしくお願ひします。